

日本骨代謝学会
会員各位

平成 29 年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
皆様新たな気持ちで新しい年を迎えられたことと存じます。

さて日本骨代謝学会が「骨代謝研究会」として産声を上げたのは 1967 年 6 月 17 日のことです。当時は会員数も少なく、第 1 回研究会は東京大学医学部の会議室で開催されました。しかしその発表は副甲状腺機能亢進症、骨系統疾患、消化管手術後の骨病変、糖尿病に伴う骨病変など多岐にわたるとともに、現在にもつながる先進的な内容であり、当時の会員の皆様の骨代謝研究に対する熱意が伝わる内容となっています。

それから数えて今年学会 50 周年を迎えます。この半世紀で骨代謝研究は大きな進歩を遂げてまいりました。また社会の高齢化に伴う骨粗鬆症をはじめとした加齢性骨疾患の増加に答えるような形で、治療薬の開発も数多く行われてきました。そしてこれらの領域で、日本骨代謝学会は中心的な役割を果たしてまいりました。産業医科大学の田中良哉会長の元で 7 月に福岡で開催される学術集会では、本骨代謝学会の半世紀を振り返るシンポジウムを計画しています。皆様ふるってご参加いただければ幸いです。

昨年の大隅良典教授のノーベル賞医学生理学賞受賞は、わが国のサイエンス全体にとって大変喜ばしいニュースでしたが、大隅先生は「役に立つ」応用研究ばかりが重要視され、基礎研究をおろそかにするような現状に対して憂慮を示されていました。日本骨代謝学会では昨年は若手研究者を対象とした第 1 回 **Skeletal Science Retreat** を開催いたしましたが、基礎研究を目指す若手研究者の育成は、今後の本領域の発展には欠かすことのできない生命線であると考えています。今後も研究助成など様々な取り組みを行い、骨代謝研究の発展のためになお一層貢献していきたいと存じます。

引き続き、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして実り多き年となりますことを祈念しつつ、年頭のご挨拶といたします。

日本骨代謝学会理事長 田中 栄
(東京大学大学院医学系研究科 整形外科学 教授)